

IPMUの“第2研究棟”完成

2009年度の補正予算により認められたIPMUの“第2研究棟”または“別館”は、既報（IPMU NEWS No.11の50ページ参照）のように3つの研究組織が共同で使用する建物の一部として昨年4月より建設が進められてきました。予定では2010年度中に完成のところ、3月11日に発生した東日本大震災の影響により若干の遅れを生じて、本年4月末に完成したこの建物は「第2総合研究棟」と名付けられました。下の写真は第2総合研究棟の外観及びIPMU研究棟との位置関係を示しています。



第2総合研究棟の外観



IPMU研究棟と第2総合研究棟の位置関係

IPMU別館の1階角には「天文情報発信センター」が設けられ、今後IPMU主導の天文学研究で得られるデータの解析と成果の発信を図ります。また、一般の訪問者が外部からガラス張りの外壁を通して、研究者の会議やデータ解析の状況を見られるとともに、多数の大きなスクリーンに投影されるデータなどを楽しむことができます。下の写真は天文情報発信センターの室内を示しています。



天文情報発信センターの内部

サイエンスカフェ宇宙2011

2011年4月23日、5月28日、6月25日に、東京都西東京市にある多摩六都科学館で、IPMUと同科学館の共催による「サイエンスカフェ宇宙2011」が開催されました。

今回のシリーズでは天文学、数学、素粒子物理学の話題を取り上げ、4月23日には唐牛宏特任教授が「すばる望遠鏡とダークエネルギー」、5月28日には近藤智特任助教が「ガロア理論の解説」、6月25日には松本重貴特任准教授が「地上で作る暗黒物質」と題してそれぞれ分かりやすく解説しました。このサイエンスカフェは参加者が気軽に講師と懇談できる雰囲気をも重視し、毎回の参加者は抽選で100名以内としました。

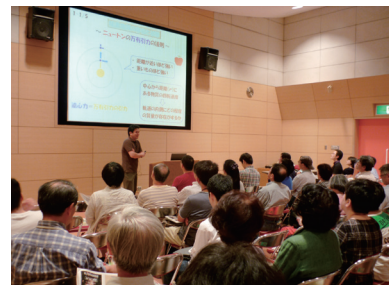
2009年から始めたこのイベントは今回でシリーズ3回目となり、計11回開催されました。今後も継続して開催してゆく予定です。



講演する唐牛特任教授



講演する近藤特任助教



講演する松本特任准教授

杉本茂樹特任教授、第16回日本物理学会論文賞受賞

杉本茂樹特任教授が、共著者の畑浩之氏、酒井忠勝氏、山戸慎一郎氏と共に第16回日本物理学会論文賞を受賞しました。受賞理由は、超弦理論を用いてバリオンを解析する方法を提案し、それを用いて計算されたバリオンのスペクトルが実験で得られているものを定性的にうまく再現することを示した功績、「ホログラフィックQCDにおけるインスタントンとしてのバリオン」です。授賞式は4月9日に行われました。

IPMU研究棟の設計者大野秀敏教授、2011年日本建築学会賞(作品)受賞

東京大学新領域創成科学研究科の大野秀敏教授が、IPMU研究棟設計の業績で、2011年日本建築学会賞(作品)を受賞されました。

日本建築学会賞は、「近年中主として国内に竣工した建築の設計(庭園・インテリア、その他を含む)であって、技術・芸術の進歩に寄与する優れた作品」に与えられます。

受賞理由は、「研究施設としてのフォーム力、デザイン力、そして家具を含む細部の力をあわせもち、また、建築家がこの『設計』(projections)に込めた『空間力』という建築作品における『第一のもの(初源力)』が、さまざまな制約条件のなかで現前化されており、その企ては高く評価できるとされ、5月30日に賞の贈呈式が行われました。



IPMU研究棟

日本建築学会からは受賞作品に取り付けるため、著名な現代彫刻家である向井良吉氏制作の銘板が贈呈されました。大野教授の名前の刻まれた銘板はIPMU研究棟の外側、コロネードの柱の一つに取り付けられました。

なお、大野教授の執筆による「螺旋運動するアカデミア—IPMU研究棟設計覚え書き」がIPMU NEWS No.8の30-35ページに掲載されていますので、ご覧下さい。



IPMU研究棟のコロネードに取り付けられた日本建築学会賞の銘板

フォーカスウィーク： 暗黒物質天文学

2011年5月30日-6月3日の5日間、IPMUにおいて「Focus week: 暗黒物質天文学」が開催されました。詳しくは53ページをご覧ください。

今後の研究会

2011 IPMU School and Workshop on Monte Carlo Tools for LHC

9月5日-10日の6日間、京都大学基礎物理学研究所において、「2011 IPMU School and Workshop on Monte Carlo Tools for LHC」が開催されます。

人事異動報告

主任研究員

東京大学数理科学研究科教授でIPMUの上級科学研究員に併任していた小林俊行さんが2011年6月1日付けでIPMU主任研究員を兼ねることになりました。専門分野は数学で、研究内容についてはIPMU NEWS次号のOur Teamに掲載予定です。



転出

特任助教の立川祐二さんがプリンストン高等研究所長期研究員として転

出しました。IPMUの在任期間は2010年11月1日-2011年4月9日でした。今回の転出は一時的なもので、近々IPMUに再度着任予定です。

また、次の3名のIPMU博士研究員が転出しました。[括弧内はIPMU在任期間です。]

Kai Wang (王凱)さん[2008年9月1日-2011年5月31日]、中国のZhejiang University(浙江大学)の研究教授へ。

Michael Pichot (ミカエル・ピシヨ)さん[2008年10月1日-2011年6月30日]、カナダのMcGill University(マックギル大学)の助教授へ。

Jiayu Tang (唐佳妤)さん[2008年11月1日-2011年6月30日]、香港中文大学の博士研究員へ。

訂正

IPMU News No.13, p. 51 人事異動報告の3-4行目、高橋史宜前特任助教のIPMU在任期間を[2007年12月1日-2011年1月31日]に訂正します。(Web版では訂正済みです。)